

**教科間連携の意義**：教材研究や指導方法の研究による教職員の授業力の向上を図り、組織的・協働的な教科経営を行う

どのように検証するの？  
 学校として課題と捉え取り組んできたことの成果や課題を、学期末の校内研修等で研究主題と照らし合わせながら振り返り、教科間連携としての取組の方向性の軌道修正を行う。

学校として育てたい生徒の姿



チーム長は、各チームのベクトルが同じ方向を向いているか確認する。

課題

チーム長会



(事前研) 何をするの？

- ❖ 各種学力調査やアンケートの結果等から課題を見出す。
- ❖ チーム全員でチームの教科の調査問題も解いて、各教科で求められている力についての確認を行う。
- ❖ 公開授業について、**授業者から事前に**、次の2点について説明する。
  - ① 本時で育成を目指す資質・能力
  - ② ①を身に付けた子どもの姿（発言、記述）

教科の枠を越えて協議する

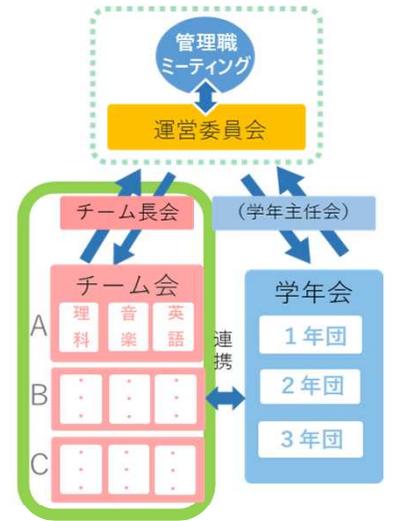
(公開授業) どのように見取るの？

- ❖ 中部教育事務所作成の各教科の「授業づくりにおいて大切にしたい視点」や各校で作成した参観シートにそって見取る。
- ❖ 子どもの具体的な発言・記述やそれに対する教師の働きかけ（発問や投げかけ）・学習活動はどうであったのかを見取る。



(事後研) 何をするの？

- ❖ 公開授業について、付けたい力が子どもに付いたのか、チームとしての取組の方向性は合っているのか、どのような授業改善や次の手立てが必要なのかについて、生徒の書いた**振り返り等を基に協議**を行う。
- ❖ **効果的な補充学習の取組**や、学年会との連携についても協議を行う。
- ❖ 協議した内容については、**自身の教科の授業でも実践し、検証**する。



定期的に通1回チーム会がもてないのですが...

- ❖ ICT機器を活用して、授業参観後のコメントを打ち込んだり、**用いた参観シートを、授業参観後に授業者に返したり**することで、授業者がいつでも見られます。
- ❖ 年度当初に会の**年間計画**を作成しておくで見通しをもって実施しやすいです。

チーム会の準備をする時間がないのですが...

すでにあるものを活用することがポイントです。例えば、授業の板書や生徒の振り返りの記述をクラウドに保存しておいたり、指導案（のデータ）に直接見取りを書き込みながら授業参観を行うと、端末や指導案を持ち寄るだけですぐに協議ができます。